

令和3年度 地域未来塾 活動事例一覧

市町名	教室数	教室名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
彦根市	20	放課後学習会	東中学校	東中学校	○	東中学校区 支援地域協議会
		さわやま教室	佐和山小学校	佐和山小学校	○	東中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	西中学校	西中学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		放課後バックアップ教室	城西小学校	城西小学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		夏休みきらり学習教室	城北小学校	城北小学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		土曜日曜教室・てみる	中央中学校	中央中学校	○	中央中学校区 支援地域協議会
		学び育ちLL教室	中央中学校	中地区公民館	○	中央中学校区 支援地域協議会
		水曜ゼミ	南中学校	南中学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		中休み学習教室	城南小学校	城南小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	城陽小学校	城陽小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		夏休み学習教室	亀山小学校	亀山小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		彦根中地域未来塾	彦根中学校	彦根中学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		2年生九九マスター教室	河瀬小学校	河瀬小学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		学力向上教室	高宮小学校	高宮小学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	鳥居本中学校	鳥居本中学校	○	鳥居本中学校区 支援地域協議会
		夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	鳥居本小学校	○	鳥居本中学校区 支援地域協議会
		地域未来塾	稲枝中学校	稲枝中学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		かがやき教室	稲枝東小学校	稲枝東小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		ホップタイム	稲枝西小学校	稲枝西小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	稲枝北小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
湖南市	4	放課後質問教室	石部中学校	石部中学校		
		放課後学習会 放課後日本語教室	甲西中学校	甲西中学校		
		地域みらい塾	甲西北中学校	菩提寺まちづくりセンター		
		日枝中未来塾 外国籍生徒日本語教室、3年進路支援	日枝中学校	日枝中学校		
米原市	5	いつ今教室	大東中学校	大東中学校		
		小論文対策講座	伊吹山中学校	伊吹山中学校		
		放課後&夏休み全校学習会				
		米原学習教室（MGK）	米原中学校	米原中学校		
		土曜学習会	河南中学校	河南中学校		
日野町	2	ちょこっと学習会	日野中学校	日野中学校		
		立ち寄り学習処 ちょき		日野町少年センター		
竜王町	1	土曜龍王塾（雲竜塾、昇竜塾）	竜王中学校	竜王中学校		
多賀町	1	土曜講座（サタスタ）	多賀中学校	多賀中学校	○	株式会社 ケイ・エム・ ジーコーポレーション

子どもたちのやる気を応援！！

彦根市	活動名：放課後学習会	東中学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：図書室		開始年度：平成26年度	
年間開催日数：33日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	
平均参加人数：13人		学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）			
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）			
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまづいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

■ 特徴的な学習支援内容

学習教科は自由。生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら運営。生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れている。

生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、生徒に学習の振り返りやボランティアへの連絡・メッセージ等を記入してもらい、ボランティアとの交流に活用している。コロナ感染予防のため、生徒・ボランティアともにマスクの着用を徹底。座席の取り方、換気等に配慮。全学年を対象に考えていたが、コロナの感染拡大のため、3年生のみ実施。

■ 事業の成果

生徒とボランティアとの関係もよく、生徒は積極的に質問するなど、良い雰囲気なかで開催できている。生徒はまじめに主体的に取り組んでおり、成績にも反映されている。ボランティア同士の関係も良く、より良い教え方などを相談しあいレベルアップされている。生徒の希望で、水曜日以外に追加開催することもあった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいように、担任をはじめ教職員との連携や情報共有をしていきたい。

報告書記入者（地域コーディネーター）



【 学習会の様子 】

子どもたちが楽しく学べる場づくりを

彦根市	活動名：さわやま教室	佐和山小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：教室		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：24日（開催ペース：月3～4日）		地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人）	
平均参加人数：17人		学習支援員等 平均人数：6人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）			
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）			
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

佐和山小学校高学年児童の国語・算数の学力の向上を目指して学力補充をしている。

■ 特徴的な学習支援内容

学校（担任）と連携をとり、児童の一人一人の弱みを把握した後、学習計画を立てる。

小グループを作り、学習支援員が小グループごとに学習指導を行う。子どもたちの弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすい。また、終盤20分程度は宿題を一緒にすることで、今学習しているところのつまづきを指導している。予習も視野に入れて宿題指導をしているため、翌日の授業への意欲も高まることが多い。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

児童も学習支援者も、検温等による体調管理は当然のこと、教室への出入り時には必ず消毒を義務付けている。また机と机の間隔を広くとったりしている。

■ 事業の成果

始めは戸惑いながら通い始めた児童も、わからなかったことがわかるようになり、この教室に通うことに前向きになってきた。自分でわかるようになったこととわからないことを自覚し、積極的に質問するようになった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

人材を確保することがなかなか難しい。本年度は確保できたが、来年度・再来年度については不安もある。



【 学習指導の様子 】

報告書記入者（地域コーディネーター）

「あなたの未来のために学力の向上を目指しませんか？」 来たれ！未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	西中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：理科室・被服室 年間開催日数：25日（開催ペース：5月～2月 週1日） 平均参加人数：22人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：8人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

- ・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後の時間帯や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が学習指導を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・学習支援員の人数を多くすることで、個別の学習支援を充実させた。
- ・各自の学習課題を自身が準備することで目的意識を明確にして、学習意欲を高めた。
- ・受験を目前に控えた3年生の希望進路の実現に向けて学力の向上を目指した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募って実施した。
- ・コーディネーターを2人、部屋を2つにして、密を避ける対策を行った。
- ・指導前に、学習支援員の検温と体調チェック、手指消毒を行った。

■ 事業の成果

- ・学習支援員として地域の方と大学生が協働する中で、お互いの交流が深まった。
- ・一人ひとりの生徒の学力に応じた個別の学習支援を実施できた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、学習支援員に高齢の方を動員することが心配される。

■ その他

- ・学習支援員の更なる増員を図り、個別指導の時間を増やしたい。



【 放課後学習会 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名：放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：教室 年間開催日数：17日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：人		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

- ・算数科を中心に、基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を4～6年生の希望者を対象に年間通して17回開催した。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援をしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・下校時、確実に迎えが来られるかどうかを確認し、迎えが可能な児童のみ参加することとした。

■ 事業の成果

- ・個別に対応することができるので、児童の困り感に寄り添い、理解しているかどうかの見取りが的確にできた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。



【6年生のバックアップ教室】

報告書記入者（ 教 頭 ）

夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名：夏休みきらり学習教室	城北小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：教室		開始年度：平成26年度	
年間開催日数：3日（開催ペース：年3日）		地域学校協働活動推進員等数：1人	
平均参加人数：60人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）			
・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）			
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

- ・実施日時：夏季休業中の3日間、(7月21日(水) 26日(月) 27日(火))、いずれも8:30から10:00まで
- ・目的：算数科を中心とした、個別の学力補充

■ 特徴的な学習支援内容

- ・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。
- ・感染防止対策として、健康状態の確認、マスクの着用、入退室時の手指消毒、換気を行い、自教室の自席での学習とした。

■ 事業の成果

- ・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまづきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった!」「できた!」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。

報告書記入者（ 教 頭 ）

来てみる・やってみる 「土曜日曜教室・てみる」

彦根市	活動名：土曜日曜教室・てみる	中央中学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：理科室		開始年度：平成26年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：月2日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：13人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）			
・教室の持ち方：□平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）			
・学習支援員等の属性：■企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 ■NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■ 特徴的な学習支援内容

1対1または子ども2人に指導者1人とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくらせている。支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみにしている子どもも多い。2時間程度の学習であるが、学習の休憩時間を交流の時間として設定し、支援員と子どもたちとの交流の機会を設けている。毎回のしめくくりの時間に子どもに活動の振り返りをさせて、ここでの学びが他の活動や時間に広がるようにしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して行っている。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクをつけて学習するとともに教室内にパーテーションを設置している。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

■ 事業の成果

個別指導により、つまづきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、学習意欲の向上や学習方法の定着にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員やサポーターの確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。



【感染対策を講じた上での実施】

報告書記入者（ 教 頭 ）

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名： 学び育ちLL教室	中央中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：中地区公民館 年間開催日数：44日（開催ペース：週1日、月4回） 平均参加人数：14人		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：10人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）		・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）	
・学習支援員等の属性： ☒ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☒ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたいたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

中央中学校の土曜教室と同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイスブックページを設け発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。

感染予防対策として健康確認と入室時の手指消毒を行い、マスクを着用して学習し、教室内では間隔をとって行っている。

■ 事業の成果

子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校傾向や特別支援の配慮を要する子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。



【 LL教室の様子 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名： 水曜ゼミ	南中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：南中学校区 年間開催日数：11日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）		・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）	
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

○放課後学習「水曜ゼミ」（11～2月）は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。基本週に1回のペースでとしているが、今年度は12月に集中講座として4日間連続で開催した。

○地域未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、今年度は実施していない。

■ 特徴的な学習支援内容

学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。地域コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し学習支援員の確保にあたっている。

■ 事業の成果

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。また生徒用タブレット端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者（ 教 頭 ）

小スタートカリキュラムとして中休みの学習教室

彦根市	活動名：中休み学習教室	城南小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：1年生各教室		開始年度：平成31年度	
年間開催日数：24日（開催ペース：週2日）		地域学校協働活動推進員等数：0人	
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☒ その他（中休み）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

小1スタートカリキュラムの一環として、学力補充が必要な1年生を中心に、中休みを利用して学力補充教室を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

国語と算数を中心に、授業中に課題が終わらなかった内容の学習支援。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

授業中の課題が時間内に終わらなかった児童に声をかけるようにした。昨年度までは、夏期休業中に学力補充教室を行っていたが、今年度は、その期間が登下校の道路の工事と重なり実施しにくく、今年度のような形をとり学力補充を行うことにした。

■ 事業の成果

小1に絞ったことで、小1スタートカリキュラムの一環として取り組むことができ、ひらがな・かたかな・足し算・引き算といった基礎的な学習の補充ができた。例年のような夏期休業中ではなく実施できたことで、授業内容に沿ったタイムリーな学習支援になった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の方に中休みだけ来てもらうというのは申し訳なく、結局は前後の時間の学習支援にも関わってもらうことになったため、地域未来塾と他の事業との時間や謝金の調整が必要になり、事務処理が煩雑になった。

報告書記入者（主幹教諭）

つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名： 学力補充教室	城陽小学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：各教室		開始年度：平成31年度	
年間開催日数：2日（開催ペース：夏季休業中）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人）	
平均参加人数：90人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

1学期終業式の午後と夏季休業初日の午前にそれぞれ2時間実施した。基礎的な学力を高めることをねらいとし、3年生以上の児童を対象として、前学年で学習した算数科の内容を中心に補充学習を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

募集時に、発展的な学習は一切せず、前学年の補充学習を行うことを周知し、個別指導が望ましい児童を中心に実施できるようにした。教師が用意したプリントの中から、各自が選んで取り組んだ。そのため、一斉指導ではなく、つまづきに個別に対応するようにした。学習支援員の方々には、各学年に分かれてもらい、教師とともに児童への個別の支援をしていただいた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

趣旨を明記したうえで保護者あてに文書を配り希望者を募ったり、個別指導が望ましいと考えられる児童に参加を促す声かけをしたりすることで参加を呼びかけた。密を避け、教室を分散させて行った。

■ 事業の成果

学習内容を限定したことにより、基礎、基本の積み上げが不十分と思われる児童にとって、個別対応の支援は心強く、「分からない」「教えてほしい」と声をあげやすい雰囲気があった。自身のつまづきに対して意欲的に向き合い学習をすすめることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

実施した時期は、大学の授業がある時期で、近隣の大学生のボランティアを募ることに大変苦労した。地域の方々など、他にも支援いただける支援員の確保に努めたい。

報告書記入者（教頭）

夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～

彦根市	活動名：夏休み学習教室	亀山小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所： 年間開催日数：3日 平均参加人数：100人		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：6人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）			
・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）			
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

- ・夏季休業中の3日間（7月26日・27日・28日）、いずれも9：00から10：30まで実施した。
- ・基礎・基本の学力の定着を目的としている。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・基礎・基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまづきには個別に対応できるようにし、子供が理解できるよう支援した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・1学期末の個別懇談会の機会に、学習教室に参加させたい児童（基礎・基本の定着が十分でないと思われる児童）の保護者に趣旨や方法を説明し、理解を得るようにした。
- ・教室の消毒や換気、室内温度をこまめに確認し、感染症の拡大防止に努めた。

■ 事業の成果

- ・それぞれの教室に担任以外の教員（支援員）がいることで、個別指導をしたりプリントの採点をしたりして、効果的に学習を進めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・昨年度は、感染症拡大防止の観点から最低限の人数での学習教室になったが、今年度は、地域コーディネータの声かけで学習支援員を確保し、よりきめ細かな支援ができた。今後も同様の規模で学習教室を実施していきたい。



【 夏休み学習教室の様子 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

学びを育む学習会

彦根市	活動名：彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：被服室 年間開催日数：31日（開催ペース：10月以降週2回、夏季休業） 平均参加人数：12人		開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：0人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）			
・教室の持ち方：■放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）			
・学習支援員等の属性：□企業人 □行政職員 ■元教員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

毎日の授業だけでは、十分に学力が定着しない生徒も多く、基礎学力の定着のためには、学力補充が必要となる。しかし、一人では家庭学習に取り組みなかつたり、何を学習してよいのかわからなかつたりする生徒も多い実情があるため、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

* 夏季休業中の補充学習および質問教室

全学年で、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が数名で学習支援を行っている。

* 3年生の放課後学習会

10月から毎週火曜日・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材のわからない問題や、数学と英語等の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- * マスクの着用と使用する教室には消毒液の設置と使用後の消毒作業を実施している。
- * 学習支援員を確保するため、教育実習生に声掛けした。

■ 事業の成果

- * 家庭学習に取り組みない生徒が、学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが、まじめに意欲的に取り組んでいた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- * 学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。

■ その他

- ・活動状況は、本校HPにて掲載している。<https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/>



【 3年放課後学習会 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

「聞いて、聞いて。言えるようになったよ！」 九九マスター教室

彦根市	活動名：2年生九九マスター教室	河瀬小学校	学校運営協議会：□有 ■ 無
主な活動場所：2年生教室	開始年度：令和3年度		
年間開催日数：6日（開催ペース：週2日）	地域学校協働活動推進員等数：0人（兼務0人）		
平均参加人数：23人	学習支援員等 平均人数：1人		
・学習形態	■個別の学力補充	□教材を使った一斉学習	■その他（九九が暗唱できたか確認する）
・教室の持ち方	□平日放課後実施	□土曜日実施	□長期休業日実施 ■その他（休み時間）
・学習支援員等の属性	□企業関係者 □行政職員 □元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要と目的

- ・2年生児童のかけ算九九の定着を図る

■ 特徴的な学習支援内容

- ・個別の学習支援 ・プリントを採点する ・かけ算九九の定着を図る

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・本校に教育実習に来た地元在住の大学生に声をかけ、学習支援を依頼した。
- ・2年生の最重要課題であるかけ算九九の習得に特化して、学習進度に合わせて、クラスごとに支援をしてもらった。

■ 事業の成果

- ・従来は担任が1人で暗唱できているか確認をし、カードに合格シールを貼っていたが、2人体制で聞くことができ、短期間に効率的に習得することができた。
- ・児童も担任以外の先生にも聞いてもらえるということで、意欲的に取り組み、定着を図ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・本来ならば、夏休み学習補充教室を実施予定であったが、コロナ禍の影響で補充教室は中止となり、代替でこの九九マスター教室を実施した。
- ・今後も、学習補充教室以外にも、学年・教科・活動を特化して、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。



【九九マスター教室】

報告書記入者（地域連携担当教員）

地域と共に育てる子どもの学び力

彦根市	活動名：学力向上教室	高宮小学校	学校運営協議会：□有 ■ 無
主な活動場所：教室	開始年度：令和3年度		
年間開催日数：7日（夏季休業中、2学期末）	地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人）		
平均参加人数：55人	学習支援員等 平均人数：7人		
・学習形態	■個別の学力補充	□教材を使った一斉学習	□その他（ ）
・教室の持ち方	■平日放課後実施	□土曜日実施	■長期休業日実施 □その他（ ）
・学習支援員等の属性	□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 ■その他		

■ 活動の概要と目的

学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養うため、夏季休業中や2学期末の放課後に希望者を対象とした学力向上教室を実施。

■ 特徴的な学習支援内容

学校の学習内容の振り返りとともに、地域教材を利用した生活に密着した内容を取り入れた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍のため、密を避け、前半後半の2グループ制とする。なお、前半は、全学年を基本コースとし、後半は、1、2年生は基本コース、3～6年生は応用コースとする。

■ 事業の成果

少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。また、学習支援員を地域住民から募ったことにより、地域未来塾だけではなく、他の学習にも協力をいただけるようになり、継続して子どもたちの学力支援をいただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

長期休業中と2学期末のみの、単発的な学習支援活動の機会であったため、年間を通した継続的な活動にする必要がある。

■ その他

学習支援員として、大学生や高校生、中学生などを招くことができれば、子どもたちのキャリア教育にもつながると考える。



【学力向上教室】

報告書記入者（地域連携担当教員）

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	鳥居本中学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：教室 年間開催日数：12日（開催ペース：夏季休業） 平均参加人数：6人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：2人

■ 活動の概要と目的

○生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

○基礎的な学力の補充

長期休業中に出される英語科、数学科、国語科、理科、社会科の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○参加者の募集については、希望者だけでなく、学力の補充が必要な生徒にも教員が声をかけている。

○実施にあたっては、マスクを着用し、密を避け、個別に指導をする。

■ 事業の成果

○生徒には、わかりやすく教えてもらっていると好評である。

○地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。

○学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように確保するかが、大きな課題である。

○平日の放課後等を実施できないかを検討中である。

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）



【 夏休み補充教室 】

輝く笑顔 一人ひとりの「わかった!」をめざして

彦根市	活動名：夏休み国語算数教室	鳥居本小学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：教室 年間開催日数：3日 平均参加人数：50人 ・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他		開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：5人

■ 活動の概要と目的

夏季休業中の3日間（7月21日、26日、27日）いずれも、8:30から10:20まで実施した。

国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的とした。

■ 特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

保護者の希望、または個別指導が望ましいと判断した児童への担任からの呼びかけにより参加を募った。

会場となる教室の消毒や換気、室内温度等をこまめに確認し、感染症の拡大や熱中症発症の防止に努めた。

■ 事業の成果

学習そのものに苦手意識があり、個に応じた支援が必要な児童も参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を实感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切さに目を向ける児童の姿も見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。

報告書記入者（ 教 頭 ）

生徒が意欲的に学習に取り組める学習サポート

彦根市	活動名：地域未来塾	稲枝中学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：多目的教室、図書室 年間開催日数：24日（開催ペース：7月から2月 週1回・月4回） 平均参加人数：平均9.3人		
開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） 学習支援員等平均人数：3人		
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 ■その他（ 期末三者懇談会時 ） ・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要と目的

- ・自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い、学力向上を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・7月、夏休み、2月までの毎水曜日、保護者懇談会の期間に→3年生を対象に定期考査や高校入試に向けた学習支援
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・生徒の募集→3年生の生徒及び保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集
3年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や受験対策を必要とする生徒に勧める。
 - ・コロナ対策→当初の参加希望者が多かったが、日々の参加者は平均10名程度なので、密にならないように席の間隔を取って実施してきた。



【 個別支援の様子 】

■ 事業の成果

- ・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。
- ・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・地域未来塾の講師の発掘が大変である。
- ・学校と地域コーディネーターの打合せが重要となる。

報告書記入者（ 地域コーディネーター ）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名：かがやき教室	稲枝東小学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：音楽室 年間開催日数：15日（開催ペース：月2～3日） 平均参加人数：18人		
開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：4人		
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要と目的

- 5・6年生の児童を対象に、6月より月に2～3回程度の学力補充の時間を計画した。

■ 特徴的な学習支援内容

事前に児童がつまずきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を選択し、学習を進める。学習支援員は児童の困り感に応じて、個別の学習支援を行っている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・5月に年間を通して受講できる希望者を募った。さらに、担任より個別指導が望ましいと考える児童に参加を促した。
- ・児童が学習内容を選択できるように、複数の学習内容を選びプリントを作成している。また、選んだ学習内容によって児童を少人数のグループに分けている。



【 学習支援の様子 】

■ 事業の成果

- ・算数科の基礎的な学習内容を復習することで、自信をもたせ学ぶ意欲を向上させた。児童が自分に合った学習内容を選択できるようにすることで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・同じ内容の学習をする少人数グループに分けることで、子ども同士が困り感を共有し教えあったり、学習支援員が同じところにつまずいている子どもを同時に指導したりすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・今後も取組を進めるにあたり、学習支援員さんの人材確保が必要である。また、学習支援員さんと子どもとの関係づくりが課題である。

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

わくわく はえみ学習

彦根市	活動名：ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：教室		開始年度：(令和)2年度	
年間開催日数：11日(開催ペース月1日)		地域学校協働活動推進員等数：0人	
平均参加人数：20人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他()			
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他()			
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

- ・確かな学力の定着をめざす学習。
- ・苦手な学習内容の復習をする学力補充。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・一つの学級を2グループに分け、各グループに2～3人の指導者を配置して実施した。課題については、様々な難易度のものを用意し、自分で選んで問題を解き進められるようにした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

- ・下校の人数が少なくなるため、基本的に児童全員の参加とした。児童によって、自分の力量に合わせた力がつけられるように、プリントの工夫をした。

■ 事業の成果

- ・分からない問題をすぐに聞くことができたり、励ましの声かけをしてもらったりすることで、意欲的に取り組む子が多かった。学級全体で苦手とする内容を復習することで、学力の定着を図ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・指導してくださる方の人材確保が難しいので、早めに声かけをする必要がある。



【 ホップタイム 】

報告書記入者(地域連携担当教職員)

「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高める

彦根市	活動名：ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：2年教室・4年教室		開始年度：平成28年度	
年間開催日数：50日(開催ペース：週2日)		地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務0人)	
平均参加人数：5人		学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他()			
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他()			
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

少人数による個別指導で「できた・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高められるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

課業日の月曜日(1～3年)水曜日(4～6年)、学期ごとに参加児童を募集し定員を8名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題(プリント等)を準備して実施したりし、個別の進捗で学習を進める。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫(コロナ禍における工夫・対応等)

全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。また、個別指導が有効と思われる児童へは事前に保護者に呼びかけ、参加を促している。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4～7名という少人数で実施している。感染症対策として、普通教室において、常時換気をするとともにマスクを着用しながら、密にならないように席を離して実施している。

■ 事業の成果

集団での学習では身に付きにくい児童への個別の支援が充実し、大変効果があった。学習に苦手意識のある児童にとって、分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもちやすい。また、個別に苦手な分野に絞って復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、募集の仕方を工夫する必要がある。効果があることを知らせ、児童へ声をかけるとともに、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。また、学習支援員と担任との打合せを充実させるなど、連携を一層密にしていける必要がある。

報告書記入者(教 頭)

学習習慣の定着を目指すための放課後学習

湖南省	活動名：放課後質問教室	石部中学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：普通教室 年間開催日数：75日（開催ペース：週2～3日） 平均参加人数：15人		開始年度：（平成）28年度 地域学校協働活動推進員数：1人 学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態：■個別の学力補充 ■教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 ■その他			

■ 活動の概要と目的

- ・家庭での学習がうまく進まない生徒に放課後の教室を使い、予習や復習をすることで学習習慣の定着をめざす。
- ・今年度は、1年生で平日放課後にテーマ別学習会を開催した。（教員と学習支援員で開催）

■ 特徴的な学習支援内容

- ・テスト前の学習でのわからないことを教える。
- ・学校の宿題のわからないところを支援する。
- ・実技教科の遅れている作業を援助する。
- ・授業内容が理解できていない部分を再度教える。
- ・テストのポイントとなる部分を再度講座として開設する。（テーマ別学習会）

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・手洗い、検温、マスク着用など基本的な感染症対策実施

■ 事業の成果

- ・家庭での学習習慣をつけるために効果があったと考えられる。
- ・意欲的に学習に取り組む姿が多く見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・支援する人材の確保
- ・冬季は、6時間授業を行うとほとんど放課後の時間がない。部活動との兼ね合いが難しい。
- ・学年が上がるにつれ、学習内容が難しく専門の教科以外は教えることが難しい面もある。



【1年テーマ別学習会】

報告書記入者（校長）

やる気をサポート！

～生徒たちの未来づくり・夢づくり～

湖南省	活動名：放課後学習会 放課後日本語教室	甲西中学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：（放課後学習会）理科室、（放課後日本語教室）日本語教室 年間開催日数：58日（開催ペース：放課後学習会 週1日・放課後日本語教室 週1日） 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務0人） 平均参加人数：15人 学習支援員等 平均人数：4人		開始年度：平成26年度	
・学習形態：■個別の学力補充 ■教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

《放課後学習会》 本校の生徒の課題として、家庭学習がほとんどできていないことが挙げられる。家庭での学習環境が整っていないことも考えられるが学習方法がわからないことも要因である。そこで、地域の方や元教員などに学習ボランティアとして支援していただき、自主的・主体的な学習習慣を身につけるため、学習会を6月から放課後に週1回1時間実施している。

《放課後日本語教室》 日本語習得がまだ十分でない外国籍生徒にとって授業だけで教科の学習を十分に理解することは非常に難しい。特に国語は漢字や文法など丁寧に教える必要がある。放課後にワークやプリントを中心に少人数でできるだけ個別に支援を行っている。テスト前にも集中講座を開催している。

■ 特徴的な学習支援内容

毎回5教科のプリントを使用して学習に取り組んだ。3年生については過去の入試問題にチャレンジした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

参加者が多い時には図書室など広い会場を使用して密にならないようにした。

■ 事業の成果

その場だけでなく家に持ち帰って学習の続きをするなど、家庭での学習習慣につながっている。継続して参加する生徒が増えてきている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学力に課題やしんどさのある生徒にもっと参加してもらいたい。そういった生徒には個別に声かけを行う。



【放課後日本語教室】

報告書記入者（地域学校協働活動推進員・教頭）

生徒の家庭学習を見守ります ～地域で支える地域の子ども～

湖南省	活動名：地域みらい塾	甲西北中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：菩提寺まづくりセンター		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：30日（開催ペース：月2日）		地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人）	
平均参加人数：10人		学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他			

■ 活動の概要と目的

地域の支援による地域での学習の場の提供

■ 特徴的な学習支援内容

学習の進み具合をみながら、希望に応じ個別に支援

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

事前申し込みなしの自由な参加とし、時間内であればいつ来てもいつ帰ってもOK。
スタートは全校生徒へのチラシの配布を行ったが、現在は校内にポスターの掲示とメール配信システムを使って開催のお知らせをしている。

■ 事業の成果

さまざまな理由で自宅では自主学習しづらい生徒が、落ち着いた雰囲気の中で集中して学習に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

家庭環境などさまざまな事情で学習が遅れがちな、本当に必要な生徒に対しての支援ができていないのではないかな。

■ その他

生徒のニーズに応じ、地域みらい塾の開催を増やしていきたいが、学習支援者等への謝金の補助が少なく限界を感じている。

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）



未来に羽ばたく子どもたちへのサポート 外国籍生徒への日本語教室、3年生進路支援

湖南省	活動名：日枝中未来塾 外国籍生徒日本語教室、3年生進路支援	日枝中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：日本語教室		開始年度：（平成）29年度	
年間開催日数：11日（開催ペース：長期休業期間）		地域学校協働活動推進員数：6人（兼務3人）	
平均参加人数：10人		学習支援員等 平均人数：5～8人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他			

■ 活動の概要と目的

学力の保障や学校生活の安定のために、日本語の支援が必要な生徒に対して、学校支援員や本校卒業生、地域のボランティアさんの支援のもと日本語教室学習会、進路支援を実施する。

■ 特徴的な学習支援内容

外国籍生徒が年を追うごとに増えている本校では、通訳機、翻訳版教科書等を活用して、子どもたちの学習支援を行い、生活の安定と進路支援を行っている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

希望参加ではあるが、三者懇談会や通訳を介し、生徒の状況を話し合い、参加を促進している。また、3年卒業時に本事業の趣旨を説明し、参加募集を実施している。
コロナウィルス感染拡大防止策として参加者全員に教室開催前からの体温の計測、入室時の検温、アルコール消毒を徹底している。

■ 事業の成果

ボランティア、支援員、卒業生等の丁寧で、個別的な支援による取り組みの結果、生徒の学習意欲の向上や学習の促進、進路選択に対する前向きな姿勢がみられる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ここ数年毎年取り組んでおり、事業も定着してきているが、長期休業中に一定期間実施するために卒業生やボランティアさんを含む指導者の人員確保や学習課題の個別な提供の方法を考えることが不可欠である。

また、コロナ禍における設備機器や教室内の消毒を施したうえでの人員配置、教室の設定、生徒たちだけでなく参加する協力者の感染拡大防止策を、本教室を実施するにあたり配慮することが必要である。

報告書記入者（地域学校協働活動推進委員、教頭）



【日本語教室での学習】

学力補充 「いつやるの、今でしょ！」教室

米原市	活動名：いつ今教室	大東中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：会議室、図書室 他		開始年度：平成25年度	
年間開催日数：25日		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	
平均参加人数：18人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

概要：定期テスト前や長期休業中、また、3年生入試前の時期に学力補充やテスト対策を実施する。

目的：低学力生徒の基礎学力定着と向上

自宅での学習に取り組むことが難しい生徒への支援

希望進路の実現に向けた個々の弱点補強や支援

■ 特徴的な学習支援内容

- ・参加希望者を募って実施
- ・課題プリントを作成し、参加生徒の学力レベルに応じた指導

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・各テスト前や長期休業前に参加募集の案内を作成しての呼びかけ

■ 事業の成果

- ・生徒からは「丁寧に教えてもらえるので分かりやすい」という感想が多い。
- ・保護者からの事業継続実施を望む声が多い。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・学習支援員の一定数の確保や日程調整、開講日数増加の検討



【 学習の様子 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

伊吹山中学校 小論文再策講座

米原市	活動名：小論文対策講座	伊吹山中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：本校 IT 教室		開始年度：令和元年度	
年間開催日数：3日		地域学校協働活動推進員数：0人	
平均参加人数：18人		学習支援員等 平均人数：1人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☒ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ） ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ） ・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

本校3年生の生徒を対象に、本県県立高等学校特色選抜や推薦選抜での入学検査で課される小論文に対応するため、地域住民であり、高等学校教員でもある講師を招聘し、「小論文対策講座」を実施した。

■ 特徴的な学習支援内容

生徒は、本県県立高等学校のこれまでの小論文の問題を課題にして、本番さながらに挑戦するとともに、学習支援員を務める講師が一人ひとりの小論文を添削することで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるように支援内容を工夫した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

自分の希望する進路に応じて、3年生に講座参加の希望を募った。広い特別教室を会場とし、感染予防に努めた。

■ 事業の成果

保護者や生徒からも、「実施して欲しい。」との声があり、地域のニーズに合っている。生徒一人ひとりが複数の小論文の課題に取り組み、また、講師により個別に添削を行うことで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるようになり、充実した講座となっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

小論文の添削に時間がかかるため、今後人材を増やすなど工夫する必要がある。



【 小論文対策講座 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

放課後学習会 & 夏休み全校学習会

米原市	活動名：放課後&夏休み全校学習会	伊吹山中学校	学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：本校ランチルーム 他		開始年度：令和元年度	
年間開催日数：放課後13日 夏休み4日		地域学校協働活動推進員数：0人	
平均参加人数：50人		学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： ☒ 個別の学力補充 ☐ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他			

■ 活動の概要と目的

定期テスト前の放課後や長期休業中を利用して、生徒一人ひとりが、自分の習熟度や自分のペースに応じて学習を進めることで、基礎的・基本的な知識を習得する。さらに授業で学んだ内容や課題にじっくり取り組んだり、個別に質問できる場として開催した。

■ 特徴的な学習支援内容

複数の学習支援員が生徒の要望に応じて支援できる体制をとることができるようにした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学習内容や課題等は、各生徒が自分で予定を立てて準備し、自由に質問ができるような形態をとっており、多くの生徒が参加を希望し、学習を進めることができていた。

部活動に配慮して、長期休業中は、部活動のない午後に行い、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。

■ 事業の成果

長期休業中や、部活動停止期間となる定期テスト前に実施したことで、生徒にとっては充実した学習習慣を継続させることができた。また、自分の習熟度に応じて各教科の学習を進めることができるため、目標が立てやすく、十分に理解できるまで学習に取り組むことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

生徒のニーズに応じるようにするため、学習支援員の確保に努め、今後も個別の学習指導・支援ができる体制づくりを進めていく必要がある。



【 夏休み学習会 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

地域の力を活用し、人との関わり、自分を磨く子どもの育成をめざす

米原市	活動名：米原学習教室（MGK）	米原中学校	学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：米原中学校		開始年度：平成 29 年度	
年間開催日数：70 日		地域学校協働活動推進員数：2 人（兼務○人）	
（8 月 1 週目 5 日間、10 月以降月平均 10 日開講			
平均参加人数：20 人		学習支援員等 平均人数：1～2 人	
・学習形態	：■個別の学力補充 ■教材を使った一斉学習 □その他（		
・教室の持ち方	：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（		
・学習支援員等の属性	：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 ■その他		

■ 活動の概要と目的

コロナ禍の中、不安を抱える生徒も多い中、長期休業中に低学力の生徒を中心に学習支援を行った。3年生は2学期から放課後の時間を活用し、3教科（国語・数学・英語）の講座を開催した。

3学期は入試の小論文講座を1月に4回開催した。

■ 特徴的な学習支援内容

今年度は、8月の第1週に1～3年の全学年、生徒が課題を持参し、元教員と地域ボランティアが個別指導を行った。3年生は11月より入試に向けた3教科の講座を開講した。1月には入試の小論文対策として元国語教員が指導にあたった。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全保護者あてに、案内を出した。課題の多い生徒は直接声をかけた。

夏季学習について、3年生を中心に1、2年にも拡大して質問教室を実施できた。

■ 事業の成果

一人では課題に取り組めない生徒も、提出することができた。3年生については講座を選択することにより、苦手教科の克服につながった。また、入試を意識した学習を2学期から行うことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・教員の働き方改革の視点からも本事業は有用であるが、教員OB等講師の確保が難しい。

・朝の始業前の時間にも補習・質問教室ができると良いが、講師の確保が難しい。



【 放課後学習講座の様子 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

笑顔いっぱい・学びいっぱい活動 ～自ら学ぼうとする生徒への学習機会の場の設定～

米原市	活動名：土曜学習会	河南中学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所： 年間開催日数：15日（開催ペース：月2日） 平均参加人数：6.3人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：□平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

月2回土曜日の午前中に開催し、自主的に学ぼうとする生徒のために、その場を提供して、生徒の学びの基礎を育成する。

■ 特徴的な学習支援内容

本校を卒業した大学生を講師に招き、自主的に学習を進めるうえで、わからないところをすぐに質問できる体制を構築した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

保護者宛に開講予定を事前に周知するようにした。生徒の都合のつく時刻に参加できるようにして、部活動練習後に短時間参加する生徒も多くいた。

■ 事業の成果

家庭では集中できず家庭学習が進まない生徒も、土曜学習会に参加することで、黙々と取り組む生徒に感化されて、集中して学習に取り組めた。また、わからないところをすぐに講師の大学生に質問でき、理解を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

講師の大学生の都合もあり、開催日を事前に決定することに苦慮した。定期テスト前には多くの生徒が参加することから、今後も学習する場の提供は必要と強く感じた。

■ その他

土曜学習会を開催する前日には保護者あてにメール配信をして周知した。



【 土曜学習会の様子 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

気軽に訪ね、気軽に学ぼう、ちょこっと学習会

日野町	活動名：ちょこっと学習会	日野中学校	学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：図書室 年間開催日数：14日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） 学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）		・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）	
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

■ 活動の概要と目的

一人では学習に向き合えない生徒や、日頃は質問などがしにくい生徒にとって学びの場となることを目的として、学習支援員の支援のもと学習会を実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

本年度は、コロナ禍の影響もあり、11月からの実施となった。部活動を引退した3年生を対象にしたことと、支援員を本校卒業の大学生にお願いすることで、生徒にとってより身近で親しみやすい存在になっていたと考える。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

3年生全員に参加者募集のチラシを配った。また、朝の会や帰りの会を利用して、担任より、期日の連絡と、積極的な参加を促すようしてもらった。

■ 事業の成果

家庭では、なかなか学習に取り組めない生徒も、集中して学習に取り組めた。また、大学生に分からないことを質問することで、理解を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の確保が難しい。また、実施日数増加および曜日の固定化の調整が、学校行事との関係で厳しい。



【 学習の様子 】

報告書記入者（ 教 頭 ）

一緒に勉強してスッキリさせましょう！ ちょっと ききたい ちょき

日野町	活動名：立ち寄り学習処 ちょき	日野中学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：日野町少年センター 年間開催日数：60日（開催ペース：週1～2日） 平均参加人数：4人		開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 学習支援員等 平均人数：4人
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要と目的

家庭学習の習慣が十分でない生徒が、学校帰りに気軽に立ち寄り、日常の中学校の学習で十分理解できなかったところを、大学生や教員経験者の指導を受けて学習する場所を提供し、基礎学力や学習意欲の向上を図った。

■ 特徴的な学習支援内容

受験を前にした3年生を対象とし、学習支援員は中学生と年齢に近い大学生を中心に配置し、できるだけ気楽に質問・学習ができるように努めた。また、基礎学力の不足した生徒に対しては、習熟度に合わせて気楽に質問できるようにできるだけ個別指導となるよう配慮した。教員経験者からは専門的指導を受けることができ、より深まった学習となった。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

参加者の募集については中学校と連携し、3年生全員にチラシを配布し募集した。また、部活動や学校行事との調整を行いながらより参加しやすいように努めた。

■ 事業の成果

高校入試を目前にした3年生にとって、日頃の学習で理解できていないところを学びなおすことができ参加者は満足していたようである。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

初年度であったことから事業の周知が十分でなかったほどの参加者がなかった。今後は学校とより連絡を密にして1、2年生も含めての事業実施を検討していく必要がある。また冬季は日没も早く生徒の帰宅が遅くならないよう配慮する必要がある。

報告書記入者（日野町少年センター所長）

土曜龍王塾～「望み高かれ！」輝く未来に向け“志高く生きていく生徒の育成”を目指して～

竜王町	活動名：土曜龍王塾（雲竜塾・昇竜塾）	竜王中学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：竜王中学校 年間開催日数：平日 24回、土曜日 6回 平均参加人数：平日 4～5人、土曜日 50人		開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：0人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：12人
・学習形態：■個別の学力補充 ■教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要と目的

中学校3年生を対象に、竜王中学校OB・OGを中心とした大学生や教員OBなど、地域住民から幅広く協力を得て、水曜日の放課後や秋以降の土曜日に学習を一層深めたい子どもたちの学ぶ機会として、また、家庭学習の習慣が十分に身につけていない子どもたちへの学習支援の場の創出として事業を実施する。

■ 特徴的な学習支援内容

放課後は日々の授業の補充学習を実施している。また、秋以降の土曜日には雲竜塾（発展的な学習・特色選抜入試対策）と昇竜塾（基礎的・基本的学力の定着）の2つのコースを設け、生徒のニーズに合わせ、子どもたちの主体的な学習を支援する内容としている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

昨年度に引き続き、検温・消毒を実施し、教室（会場）を分けて実施した。

■ 事業の成果

・受講生も多く、学習支援に貢献するとともに、大学生や教員OBなどの地域住民が講師として協力し、学校と地域が連携・協働する場となっている。また、参加した受講生は希望校に進学する割合が高くなっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今後、受講生が増えた場合、教材や謝礼などの経費をどう捻出するか、また、安定した指導者の確保をどうするかが課題である。



【教室の様子】
（竜王中学校より提供）

報告書記入者（生涯学習課 生涯学習係 主査）

教育委員会・学校・塾が連携し、中学生の学力向上を図る土曜講座（サタスタ）

多賀町	活動名：土曜講座（サタスタ）	多賀中学校	学校運営協議会： ☐ 有 ☒ 無
主な活動場所：多賀中学校		開始年度：平成21年度	
年間開催日数：18日（開催ペース：月3日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務 0人）	
平均参加人数：31人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： ☐ 個別の学力補充 ☒ 教材を使った一斉学習 ☐ その他（ ）			
・教室のもち方： ☐ 平日放課後実施 ☒ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他（ ）			
・学習支援員等の属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☐ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他			

■ 活動の概要と目的

中学生の学力伸長を目的として、中学校との連携をもとに希望生徒を募り、年間18日間、土曜日の午前中に多賀中学校を会場として開講している。

■ 特徴的な学習支援内容

提携塾に講師派遣を依頼し、国語・数学・英語の3教科の学習を、学年別に50分間ずつ、中学校の年間計画に沿って学習をすすめている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

中学校・提携塾と調整して開講日を決め、家庭学習とタイアップした効果的な学びの場としている。例年は町立博物館で開催しているが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、多賀中学校に会場変更し、換気・消毒等の徹底を図っている。

■ 事業の成果

経済的に塾に行けない子どもへの学習機会となり、保護者から大変喜ばれている。また、学校と連携した指導と効果的な個別支援により、学習に自信を付けた子も多い。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

個別支援の充実を図るために、奨学金受給者・大学生中心に広く募集し、ボランティアの参加拡大を図る。



【土曜講座風景（1年生）】

報告書記入者（町担当者）